

研究拠点形成事業 平成 27 年度 実施報告書

A. 先端拠点形成型

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	京都大学ウイルス研究所
(イギリス) 拠点機関：	インペリアル・カレッジ・ロンドン
(アメリカ) 拠点機関：	カリフォルニア大学ロスアンゼルス校
(ベルギー) 拠点機関：	リエージュ大学
(フランス) 拠点機関：	ストラスブール大学
(ドイツ) 拠点機関：	フライブルク大学

2. 研究交流課題名

(和文)： ウイルス感染と宿主応答の総合的理解に向けた国際研究拠点形成
(交流分野：ウイルス学・免疫学)

(英文)： International research network for virus infections and host responses
(交流分野：Virology /Immunology)

研究交流課題に係るホームページ：<http://jsps-core.virus.kyoto-u.ac.jp/>

3. 採用期間

平成 26 年 4 月 1 日 ～ 平成 31 年 3 月 31 日

(2 年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：京都大学ウイルス研究所

実施組織代表者 (所属部局・職・氏名)：ウイルス研究所・所長・小柳義夫

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：ウイルス研究所・教授・朝長啓造

協力機関：熊本大学および大阪大学

事務組織：京都大学南西地区共通事務部

相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名：イギリス

拠点機関：(英文) Imperial College of London

(和文) インペリアル・カレッジ・ロンドン

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文) Faculty of Medicine, Professor, Charles R.M. BANGHAM

協力機関：(英文) None

(和文) なし

経費負担区分 (A型)：パターン1

(2) 国名：アメリカ

拠点機関：(英文) University of California Los Angeles

(和文) カリフォルニア大学ロサンゼルス校

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文) AIDS Institute, Professor, Jerome ZACK

協力機関：(英文) University of California San Francisco

(和文) カリフォルニア大学サンフランシスコ校

経費負担区分 (A型)：パターン1

(3) 国名：ベルギー

拠点機関：(英文) University of Liege

(和文) リエージュ大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文) Interdisciplinary Cluster for Applied Genoproteomics, Professor, Lucas WILLEMS

協力機関：(英文) None

(和文) なし

経費負担区分 (A型)：パターン1

(4) 国名：フランス

拠点機関：(英文) University of Strasbourg

(和文) ストラスブール大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文) Institute for Molecular and Cellular Biology, Professor, Jean-Marc REICHHART

協力機関：(英文) None

(和文) なし

経費負担区分 (A型)：パターン1

(5) 国名：ドイツ

拠点機関：(英文) University of Freiburg

(和文) フライブルグ大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文) Institute for Medical Microbiology and Hygiene, Professor, Martin SCHWEMMLE

協力機関：(英文) None

(和文) なし

経費負担区分 (A型)：パターン1

5. 研究交流目標

5-1. 全期間を通じた研究交流目標

本研究交流の目的は、(1) ウイルス・感染応答の第一線の研究者が集う国際共同研究拠点の立ち上げ(2) これまでの個人レベルの共同研究と(1)の国際共同研究拠点を統合することで、各研究をさらに推進・発展させるとともに、新たな共同研究を促進すること(3) 国際性を兼ね備えたわが国のウイルス学研究の次世代リーダーの育成、である。京都大学ウイルス研究所の連携グループ「感染症コアラボ」は、ヒトT細胞白血病ウイルスやRNAウイルスを認識する宿主因子の発見など、わが国におけるウイルス感染症研究の中心的な役割を果たしてきた。また、霊長類を用いたウイルス感染症モデルの作製など、ウイルス感染症の研究拠点形成に向けた活動を行ってきており、当該研究所は文部科学大臣認定の共同利用・共同研究拠点となっている。本研究交流では、この拠点機能をさらに国際的なレベルに拡大し、ウイルス・感染応答研究及び教育の先端拠点として立ち上げる。感染症コアラボでは、共同研究により、人類を脅かすウイルス感染症の克服を目指し、様々なウイルスを対象としたウイルス感染症の発症原因究明や抗ウイルス薬の探究を行っている。海外のウイルス・感染応答研究の第一線の研究グループとの人的連携をこれまでの分野を超えて深めることにより研究を推進し、新たな共同研究の萌芽にもいち早く対応する。特に、若手研究者の積極的な参画を促し、海外での研究と発表、人脈形成の機会を提供し、専門的な知識を深めると共に共同研究を企画・遂行するスキルを身に付けてもらう。

5-2. 平成27年度研究交流目標

<研究協力体制の構築>

前年度の成果を踏まえ、さらなる研究協力体制を推進する。積極的に海外機関や国内協力機関との新たな共同研究体制を構築していくとともに、個々の研究者間での共同セミナーや国際学会などの機会を利用した共同研究打ち合わせを積極的に支援する。国内拠点「感染症コアラボ」の共同セミナーも開催する。

<学術的観点>

昨年度よりも、多くの国際共同研究の実施を推進する。個々の研究の学術的な水準に関しては全く問題がない。そこで本年度は、研究拠点としての学術的な成果を目に見える形で残すことを目標にする。具体的には、研究拠点形成事業共著論文数の増加を目標とする。

<若手研究者育成>

本年度は、若手研究者に対するセミナーやトレーニングコースの開設を目標にする。具体的には、企画段階より若手研究者自身の積極的な参加を促し、セミナーやトレーニングコースの講義プログラムの策定、講師の選択と招聘打診等を体験させる。また、前年度に引き続き、海外連携機関との若手研究者・大学院生の人材相互派遣を積極的に行う。この他、海外で開催される研究者向けワークショップや学会への参加に対する支援を行うことで若手研究者育成に努める。

<その他（社会貢献や独自の目的等）>

前年度に引き続き、研究拠点での成果に関しては、ホームページや学会発表、新聞発表等を通じて、随時、社会への発信を行う。

6. 平成27年度研究交流成果

（交流を通じての相手国からの貢献及び相手国への貢献を含めてください。）

6-1 研究協力体制の構築状況

平成27年度は既存の研究協力体制のさらなる推進と海外機関や国内協力機関との新たな共同研究体制の構築を目標にした。これを達成するために、国内拠点「感染症コアラボ」の研究者が参加する共同セミナーを京都大学ウイルス研究所内で5月ならびに9月に開催した。また、平成27年度は、国内で1機関11名、海外で1機関1名の新たな参加研究者の追加があった。前年度からの追加分を合わせると、海外での協力研究者は着実に増えており、本拠点事業における研究協力体制は確立されつつあると思われる。

一方で、各研究者は海外拠点機関ならびに海外協力研究者と個別の共同研究を積極的に広げている。具体的には、拠点コーディネーターである朝長は、ドイツ拠点機関の Dr. Martin SCHWEMMLE と6月にイタリアで開催された第15回 Negative-strand virus meeting にて共同研究とこれまでの研究成果に関するディスカッションを行った。また、小柳は4月にアメリカ拠点機関の Dr. Jerome ZACK と Dr. Dong Sung AN を尋ね、共同研究に関するディスカッションを行った。Dr. Dong Sung AN はウイルス研究所の共同利用・共同研究拠点「ウイルス感染症・生命科学先端融合的共同研究拠点」にも小柳の共同研究者として参画し、共同利用・共同研究拠点の国際化にも貢献した。松岡は、6月にフランスで開催された 17th International conference on Human Retrovirology: HTLV & Related Viruses に参加し、イギリスならびにベルギーの拠点機関の Dr. Charles BANGHAM と Dr. Lucas WILLEMS と共同研究に関するディスカッションを行った。竹内は、6月の RNA stability meeting に参加し、New York University の協力研究者 Dr. Takuya UEHATA と共同研究に関する話し合いを行った。また、アメリカ拠点機関の Dr. Jerome ZACK は9月に来日し、「感染症コアラボ」のメンバーとディスカッションを行うとともに、本拠点事業共催の第14回あわじしま感染症・免疫フォーラムで講演を行った。さらに、イギリス拠点機関の Dr. Charles BANGHAM は3月に京都を訪れ、松岡と共同研究に関するディスカッションを行っている。このように、「感染症コアラボ」のメンバーは積極的に海外拠点との研究交流を行っており、本年度の目標は達成できたと考えている。

6-2 学術面の成果

平成27年度は、これまでの共同研究をさらに発展させ、国際共同研究を推進するとともに、国際ネットワーク拠点の成果としての論文発表の増加を目標にした。国内拠点である京都大学「感染症コアラボ」の研究者による学術研究は成果を上げており、論文としての成果発表も着実に行われた（朝長12報、小柳16報、松岡17報、藤田5報、竹内11報）。

その中で、本事業名が明記された国内参加研究者の共著論文は 23 報である。また、海外拠点との研究交流による成果は 8 報となっており、学術的な観点からも一定の成果を上げつつあり目標は達成できたと考える。このように本事業による交流は国内および海外拠点での研究成果に貢献した。

6-3 若手研究者育成

国際シンポジウム等での発表とともに、若手研究者を海外拠点機関への派遣することで国際交流を促すことを目標にした。

この目標に従い、平成 27 年度は国内拠点ならびに国内の若手の協力研究者を積極的に国際学会（7 名）へと参加し、また 2 名の若手研究者を中・長期に海外（アメリカおよびイギリス）の協力研究機関あるいは協力研究者の元に派遣した。若手研究者に対するセミナーを国内拠点であるウイルス研究所で 2 回（6 月と 10 月）外部の講師を招待して行うとともに、9 月には第 14 回あわじしま感染症・免疫フォーラムにおいて、共催という立場で本拠点形成事業に関するシンポジウムを開催した。一方、若手研究者対象のトレーニングコースに関しては、計画を進めたものの年度内の具体的な実施に至らなかったため平成 28 年度の目標とする。

6-4 その他（社会貢献や独自の目的等）

拠点内での成果に関しては、ホームページや学会発表を通して随時、発信をおこない、拠点活動の社会への周知に努めた。9 月に共同開催した第 14 回あわじしま感染症・免疫フォーラムでは本拠点形成事業に関するシンポジウムを催し、拠点活動の周知を行った。

6-5 今後の課題・問題点

国際共同研究の成果に関しては、着実に上がってきており問題はないと考えられる。一方で、若手育成に関して海外学会への参加や共同研究先への派遣は着実に実施してきたものの、日本国内での若手研究者育成のためのトレーニングコース等のセミナーや講義の開催数が少ないことが課題と考えられる。そこで、平成 28 年度は、国内拠点である京都大学ウイルス研究所内での若手対象のキャリアパスセミナーを含むシリーズ講義の開催や共催するあわじしま感染症・免疫フォーラム内での若手研究者へのイントロダクトリーレクチャーの開催を計画している。さらに、本事業から得られた成果に関して社会への発信がホームページに限られていたのも課題であったと考える。今後は、大学の学術研究支援室や広報課などの協力を得て、本国際拠点形成事業に関する成果を広く一般にも発信することを目標にする。

6-6 本研究交流事業により発表された論文等

- (1) 平成 27 年度に学術雑誌等に発表した論文・著書 23 本
うち、相手国参加研究者との共著 6 本

- (2) 平成27年度の国際会議における発表 12 件
うち、相手国参加研究者との共同発表 1 件
- (3) 平成27年度の国内学会・シンポジウム等における発表 18 件
うち、相手国参加研究者との共同発表 2 件
- (※ 「本事業名が明記されているもの」を計上・記入してください。)
- (※ 詳細は別紙「論文リスト」に記入してください。)

7. 平成27年度研究交流実績状況

7-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成26年度	研究終了年度	平成30年度
研究課題名	(和文) ウイルス感染と宿主応答の総合的理解に向けた国際研究拠点形成 (英文) International research network for virus infections and host responses				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 朝長 啓造・京都大学ウイルス研究所・教授 (英文) Keizo Tomonaga・Institute for Virus Research Kyoto University・Professor				
相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文) Charles R.M. BANGHAM・Imperial College of London・Professor Jerome ZACK・University of California Los Angeles・Professor Lucas WILLEMS・University of Liege・Professor Jean-Marc REICHHART・University of Strasbourg・Professor Martin SCHWEMMLE・University of Freiburg・Professor				
参加者数	日本側参加者数	54名			
	(イギリス) 側参加者数	4名			
	(アメリカ) 側参加者数	11名			
	(ベルギー) 側参加者数	1名			
	(フランス) 側参加者数	3名			
	(ドイツ) 側参加者数	10名			
27年度の研究 交流活動	平成27年度は各研究者間の研究交流活動が活発に行われた。5月と9月にはウイルス研究所内の「感染症コアラボ」メンバーが参加する共同セミナーを開催した。また、国際学会を利用した現地での共同研究者とのミーティングが行われた。具体的には、朝長らはドイツ拠点機関の Dr. Martin SCHWEMMLE と6月にイタリアで開催された第15回 Negative-strand virus meeting にてディスカッションを行った。松岡らは6月にフランスで開催された 17th International conference on Human Retrovirology: HTLV & Related Viruses で、イギリスならびにベルギーの拠点機関の Dr. Charles BANGHAM と Dr. Lucas WILLEMS とディスカッションを行った。竹内は6月の RNA stability meeting に参加し、New York University の協力研究者 Dr. Takuya UEHATA と共同研究に関して話し合いを行った。また、海外の拠点機関へ				

	<p>の訪問も行われた。小柳は4月にアメリカ拠点機関の Dr. Jerome ZACK と Dr. Dong Sung AN を尋ね、共同研究に関するディスカッションを行った。佐藤は9月にイギリスの協力機関であるグラスゴー大学を訪問し、協力研究者と共同実験を行なった。</p> <p>また、海外拠点機関から共同研究者の訪日も行われた。アメリカ拠点機関の Dr. Jerome ZACK は9月に来日し、本拠点事業共催の第14回あわじしま感染症・免疫フォーラムで講演を行うとともに、「感染症コアラボ」のメンバーとディスカッションを行った。さらに、イギリス拠点機関の Dr. Charles BANGHAM は3月に京都を訪れ、松岡と共同研究に関するディスカッションを行っている。さらに、国際シンポジウムに参加した若手研究者は学会会場においても海外の拠点や協力機関の若手研究者との交流を積極的に行った。</p>
<p>27年度の研究交流活動から得られた成果</p>	<p>平成27年度には国際的な研究交流活動が広がっており、研究拠点としての活動が充実してきたと考えられる。</p> <p>長期訪問を含む活発な研究者交流により、共同研究の促進とさらなる発展が見られ、今後の研究成果につながると考えられる。具体的には、松岡や小柳が推進する HIV や HTLV の病原性機構の解明に関する共同研究や朝長が進める新型ボルナウイルスの疫学に関する研究で大きな進展が認められた。また、国際シンポジウムや共同研究をきっかけに、新たな共同研究も開始され、アメリカ、フランス、ドイツでは平成28年度に多くの協力研究者が追加されている。</p> <p>若手研究者に対する国際シンポジウムや国際学会への参加そして共同研究機関への長期の訪問を支援したことで、若手研究者の目を海外に向けさせ、将来、国際的に活躍できる研究者を目指すきっかけを与えることができたと考える。</p>

7-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「ウイルス感染と宿主応答の総合的理解に向けた国際研究拠点形成」セミナー in 第 14 回あわじしま感染症・免疫フォーラム
	(英文) JSPS Core-to-Core Program “International research network for virus infections and host responses“ seminar in the 14th Awaji International Forum on Infection and Immunity
開催期間	平成 27 年 9 月 8 日 ~ 平成 27 年 9 月 11 日 (4 日間)
開催地 (国名、都市名、会場名)	(和文) 日本・淡路市・淡路夢舞台国際会議場
	(英文) Japan/Awaji/ The Awaji Yumebutai International Conference Center
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 朝長啓造・京都大学 ウイルス研究所・教授
	(英文) Keizo Tomonaga/Institute for Virus Research Kyoto University/Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文)

参加者数

派遣先 派遣	セミナー開催国 (日本)	
	A.	B.
日本 <人/人日>	A.	5/ 18
	B.	80
イギリス <人/人日>	A.	0/ 0
	B.	2
アメリカ <人/人日>	A.	1/ 4
	B.	10
ベルギー <人/人日>	A.	0/ 0
	B.	
フランス <人/人日>	A.	0/ 0
	B.	
ドイツ <人/人日>	A.	0/ 0
	B.	1
合計 <人/人日>	A.	6/ 22
	B.	93

A. 本事業参加者（参加研究者リストの研究者等）

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>あわじしま感染症・免疫フォーラムは、日本で毎年開催されている感染症（ウイルス・細菌・寄生虫）分野と免疫分野の研究者を一堂に集めた国際フォーラムである。本フォーラムは、毎年、10～15名程度の感染症・免疫分野の一流の研究者を海外から招待し、講演を行ってもらおうと同時に、国内の研究者との交流を図っている。</p> <p>平成 27 年度は、日本学術振興会研究拠点形成事業「ウイルス感染と宿主応答の総合的理解に向けた国際研究拠点形成」共催としてあわじしま感染症・免疫フォーラム内で特別セッションを開催し、国内外の感染症・免疫学領域の研究者に本研究拠点形成事業の活動と研究状況を知ってもらおうとともに、現在拠点外の研究者との新たな共同研究の可能性を探ることを目指した。</p>	
<p>セミナーの成果</p>	<p>第 14 回あわじしま感染症・免疫フォーラムにおいて開催した特別セッションには、国内から 85 名、海外より 14 名の若手研究者を含む多くの参加があった。特に拠点メンバー以外の国内外のトップクラスの研究者の参加があったことは、今後の拠点形成事業の発展にもつながると考えられた。また、本フォーラムには、細菌や寄生虫を専門とする研究者も多く参加しており、ウイルス感染や宿主応答領域以外の研究者にも広く本拠点形成事業の活動と研究内容を周知できたことも大きな成果と考える。</p>	
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>東京大学医科学研究所内の組織が運営の中心となった。フォーラムにおける研究拠点形成事業共催セミナー「ウイルス感染と宿主応答の総合的理解に向けた国際研究拠点形成」に関しては、国内拠点機関である京都大学「感染症コアラボ」が中心となり運営を行った。</p>	
<p>開催経費 分担内容 と金額</p>	<p>日本側</p>	<p>内容：ポスター印刷、発送費、会場備品利用料、オペレーター料金 金額 559,870 円</p>
	<p>(アメリカ) 側</p>	<p>内容：外国旅費</p>

B. 一般参加者（参加研究者リスト以外の研究者等）

※日数は、出張期間（渡航日、帰国日を含めた期間）としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

整理番号	S-2
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「ウイルス研究の潮流シリーズ (ウイルス研究所セミナー/共同利用・共同研究拠点セミナー/JSPS Core-to-Core プログラム 研究拠点形成事業セミナー)」
	(英文) -
開催期間	平成 27 年 6 月 17 日 (1 日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) 京都大学ウイルス研究所 本館 1 階セミナー室
	(英文) -
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 朝長啓造・京都大学 ウイルス研究所・教授
	(英文) Keizo Tomonaga/Institute for Virus Research Kyoto University/Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) -

参加者数

派遣先 派遣		セミナー開催国 (日本)
日本 〈人/人日〉	A.	8/8
	B.	23
合計 〈人/人日〉	A.	8/8
	B.	23

- A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)
 B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

※日数は、出張期間 (渡航日、帰国日を含めた期間) としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>ウイルス研究所の「ウイルス学の潮流シリーズ」セミナーと共同で本事業に関するセミナーを開催する。</p> <p>本セミナーの講演者は、長年、生物の初期発生過程における形態形成と、生殖細胞の分化を支配する遺伝子の探索および制御機構の解析に重点を置いて研究を行っており、ウイルス進化に関する学術的な成果のみならず、他の分野における幅広い知見を有している。今回のセミナーは、「感染症コアラボ」以外のウイルス研究所員にも広く拠点形成事業の活動を知らせるとともに、拠点事業に参加している若手研究者に対して研究の新たな方向性を示すとともに、キャリアパスに関する研究教育的な話をしてもらうのが目的である。</p>	
<p>セミナーの成果</p>	<p>演者である古澤 満博士は大阪市立大学理学部助教授、第一製薬分子生物研究室長、新技術事業団「古澤発生遺伝子プロジェクト」総括責任者などを経て、ネオ・モルガン研究所を設立した発生生物学者であり、専門研究のみならず、学際領域、そして産学間の連携や国際共同研究などに関しても極めて幅広い知見を有していた。</p> <p>今回のセミナーでは、専門である研究領域の議論の加え、キャリアパスに関する議論を研究所内の若手研究者に向けて講演をもらった。参加した若手研究者からは、研究の話だけではなく教育セミナーとしても非常に有益であったと評価を受け、若手教育としての成果があったと考えられる。</p>	
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>京都大学ウイルス研究所</p>	
<p>開催経費 分担内容 と金額</p>	<p>日本側</p>	<p>内容：セミナー講演者の旅費・謝金 金額 48,560 円</p>

整理番号	S-3
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「ウイルス研究の潮流シリーズ (ウイルス研究所セミナー/共同利用・共同研究拠点セミナー/JSPS Core-to-Core プログラム 研究拠点形成事業セミナー)」
	(英文) -
開催期間	平成27年10月7日(1日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) 京都大学ウイルス研究所 本館1階セミナー室
	(英文) -
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 竹内理・京都大学 ウイルス研究所・教授
	(英文) Osamu Takeuchi/Institute for Virus Research Kyoto University/Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) -

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (日本)	
	A.	B.
日本 〈人/人日〉	A.	13/13
	B.	15
合計 〈人/人日〉	A.	13/13
	B.	15

- A. 本事業参加者(参加研究者リストの研究者等)
 B. 一般参加者(参加研究者リスト以外の研究者等)

※日数は、出張期間(渡航日、帰国日を含めた期間)としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>ウイルス研究所の「ウイルス学の潮流シリーズ」セミナーと共同で本事業に関するセミナーを開催する。</p> <p>本セミナーの講演者は、長年、ウイルス感染に対する自然免疫認識機構に対する研究を行い、著明な成果を挙げている。Highly cited researcherの一人にも選ばれており、この分野での日本の第一人者である。</p> <p>今回のセミナーは、「感染症コアラボ」以外のウイルス研究所員にも広く拠点形成事業の活動を知らせるとともに、拠点事業に参加している若手研究者に対して研究の新たな方向性を示すとともに、キャリアパスに関する研究教育的な話をしてもらうのが目的である。</p>	
<p>セミナーの成果</p>	<p>演者である奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科の河合太郎博士は、国内の若手免疫学者の中でもトップを走る研究者である。</p> <p>本セミナーでは、具体的な研究成果の発表に加え、若手研究者に向けて世界を相手に着実に成果を上げておられる河合先生の研究方針や研究活動に関する講演してもらった。国際的に第一線で活躍する研究者による講演はウイルス研究所の若手研究者の大きな刺激になったと考える。</p>	
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>京都大学ウイルス研究所</p>	
<p>開催経費 分担内容 と金額</p>	<p>日本側</p>	<p>内容：セミナー講演者の旅費・謝金 金額 49,460 円</p>

7-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

所属・職名 派遣者名	派遣・受入先 (国・都市・機関)	派遣期間	用務・目的等
京都大学ウイルス研究所・研究員 吉川 緑助	アメリカ・ベセスダ、フレデリック、コールドスプリングハーバー	H27.5.12～ H27.5.25	相手国参加者と本事業に係る研究打ち合わせを行った。また、Cold Spring Harbor Laboratory Retroviruses に参加し本事業に係る研究成果発表及び情報収集を行った。
京都大学ウイルス研究所・教授 朝長 啓造	イタリア・シエナ	H27.6.13～ H27.6.21	Negative strand RNA virus meeting 2015 に参加し本事業に関する情報収集を行った。また、相手国参加者とディスカッションならびに若手研究者と研究交流を行った。
京都大学ウイルス研究所・助教 本田 知之	イタリア・シエナ	H27.6.13～ H27.6.21	Negative strand RNA virus meeting 2015 に参加し本事業に関する発表及び情報収集を行った。また、相手国参加者とディスカッションならびに若手研究者と研究交流を行った。
京都大学ウイルス研究所・特定助教 牧野 晶子	イタリア・シエナ	H27.6.13～ H27.6.21	Negative strand RNA virus meeting 2015 に参加し本事業に関するポスター発表及び情報収集を行った。また、相手国参加者とディスカッションならびに若手研究者と研究交流を行った。
京都大学医学研究科・D4 惣福 梢	イタリア・シエナ	H27.6.13～ H27.6.19	Negative strand RNA virus meeting 2015 に参加し本事業に関するポスター発表及び情報収集を行った。また、相手国参加者とディスカッションならびに若手研究者と研究交流を行った。
京都大学ウイルス研究所・教授 松岡 雅雄	フランス・フォーレ＝ド＝フランス	H27.6.16～ H27.6.23	17th International conference on Human Retrovirology: HTLV & Related Viruses に参加し、本事業に関する発表及び情報収集を行った。また、相手国参加者とディスカッションならびに若手研究者と研究交流を行った。

京都大学ウイルス研究所・講師 安永 純一郎	フランス・フ ォール＝ド＝ フランス	H27.6.16 ～ H27.6.23	17th International conference on Human Retrovirology:HTLV & Related Viruses に参加し、本事業に関する情報収集を行った。また、相手国参加者とディスカッションならびに若手研究者と研究交流を行った。
京都大学医学研究科・D4 安間 恵子	フランス・フ ォール＝ド＝ フランス	H27.6.16 ～ H27.6.23	17th International conference on Human Retrovirology:HTLV & Related Viruses に参加し、本事業に関するポスター発表及び情報収集を行った。また、相手国参加者とディスカッションならびに若手研究者と研究交流を行った。
京都大学ウイルス研究所・学振特別研究員 菅田 謙治	フランス・フ ォール＝ド＝ フランス	H27.6.16 ～ H27.6.23	17th International conference on Human Retrovirology:HTLV & Related Viruses に参加し、本事業に関する発表及び情報収集を行った。また、相手国参加者とディスカッションならびに若手研究者と研究交流を行った。
京都大学ウイルス研究所・教授 小柳 義夫	鳥取県	H27.6.19 ～ H27.6.20	第17回白馬シンポジウムにて本事業に関する情報収集を行った。
京都大学ウイルス研究所・教授 竹内 理	東京都	H27.6.30 ～ H27.7.2	第67回日本細胞生物学会大会に参加し、本事業に関する発表及び情報収集を行った。
京都大学ウイルス研究所・助教 佐藤 佳	イギリス・グ ラスゴー	H27.7.7 ～ H27.9.13	グラスゴー大学にて本事業に関する研究を行った。
京都大学ウイルス研究所・助教 佐藤 佳	フランス・パ リ	H27.9.14 ～ H27.9.17	パスツール研究所にてセミナー参加及び本事業に関する研究打ち合わせを行った。訪問先の Di Santo 教授はウイルス感染モデル動物であるヒト化マウスの専門家であり、訪問により本研究遂行にきわめて重要な情報を得ることができた。
京都大学ウイルス研究所・助教 佐藤 佳	ドイツ・ウル ム	H27.9.18 ～ H27.9.21	ウルム大学にて本事業に関する研究打ち合わせを行った。

京都大学ウイルス研究所・助教 佐藤 佳	イギリス・グラスゴー	H27. 9. 22 ~ H27. 10. 7	グラスゴー大学にて本事業に関する研究を行った。
京都大学ウイルス研究所・教授 竹内 理	東京都	H27. 7. 9 ~ H27. 7. 11	がん免疫療法・マクロファージ国際会議2015に参加し、本事業に関する情報収集を行った。
京都大学ウイルス研究所・教授 竹内 理	北海道	H27. 7. 14 ~ H27. 7. 17	第17回 RNA meeting に参加し、本事業に関する情報収集を行った。
京都大学ウイルス研究所・助教 三野 享史	北海道	H27. 7. 14 ~ H27. 7. 18	第17回 RNA meeting に参加し、本事業に関する発表及び情報収集を行った。
京都大学ウイルス研究所・教授 朝長 啓造	大阪府	H27. 7. 24 ~ H27. 7. 25	第21回日本遺伝子治療学会学術集会に参加し、本事業に関する発表及び情報収集を行った。
京都大学ウイルス研究所・研究員 吉川 禄助	北海道	H27. 7. 29 ~ H27. 8. 2	第21回日本野生動物医学会大会に参加し、本事業に関する発表及び情報収集を行った。
京都大学医学研究科・D2 山田 英里	北海道	H27. 7. 29 ~ H27. 8. 2	第21回日本野生動物医学会大会に参加し、本事業に関する発表及び情報収集を行った。
京都大学ウイルス研究所・研究員 吉川 禄助	東京都	H27. 8. 20 ~ H27. 8. 22	第17回日本進化学会に参加し、本事業に関する発表及び情報収集を行った。
京都大学ウイルス研究所・特定研究員 泉 泰輔	東京都	H27. 8. 20 ~ H27. 8. 23	第17回日本進化学会に参加し、本事業に関する発表及び情報収集を行った。
東京農業大学農学部・助教 小林 朋子	沖縄県	H27. 10. 1 ~ H27. 10. 4	本事業に関する研究打ち合わせ及びアジアスイギュウから採血を行った。
京都大学ウイルス研究所・教授 竹内 理	北海道	H27. 11. 17 ~ H27. 11. 21	第44回日本免疫学会学術集会に参加し、本事業に関する情報収集を行った。酪農学園大学にて本事業に関する講演及び情報交換を行った。
京都大学ウイルス研究所・外国人共同研究者	北海道	H27. 11. 17 ~ H27. 11. 21	第44回日本免疫学会学術集会に参加し、本事業に関する発表及び情報収集を行った。

Sarang Tartey			
京都大学ウイルス研究所・研究員 若林 敦子	北海道	H27. 11. 17 ～ H27. 11. 23	第 44 回日本免疫学会学術集会に参加し、本事業に関する発表及び情報収集を行った。
京都大学医学研究科・D 4 惣福 梢	福岡県	H27. 11. 21 ～ H27. 11. 24	第 63 回日本ウイルス学会学術集会に参加し、本事業に関する発表及び情報収集を行った。
京都大学生命科学研究科・D 1 小嶋 将平	福岡県	H27. 11. 21 ～ H27. 11. 24	第 63 回日本ウイルス学会学術集会に参加し、本事業に関する発表及び情報収集を行った。
京都大学生命科学研究科・大学院生 小森 園亮	福岡県	H27. 11. 21 ～ H27. 11. 24	第 63 回日本ウイルス学会学術集会に参加し、本事業に関する発表及び情報収集を行った。
京都大学生命科学研究科・大学院生 徳永 智哉	福岡県	H27. 11. 21 ～ H27. 11. 24	第 63 回日本ウイルス学会学術集会に参加し、本事業に関する発表及び情報収集を行った。
京都大学ウイルス研究所・教授 小柳 義夫	福岡県	H27. 11. 21 ～ H27. 11. 24	第 63 回日本ウイルス学会学術集会に参加し、本事業に関する情報収集を行った。
京都大学ウイルス研究所・助教 佐藤 佳	福岡県	H27. 11. 21 ～ H27. 11. 24	第 63 回日本ウイルス学会学術集会に参加し、本事業に関する発表及び情報収集を行った。
京都大学ウイルス研究所・研究員 吉川 禄助	福岡県	H27. 11. 21 ～ H27. 11. 24	第 63 回日本ウイルス学会学術集会に参加し、本事業に関する発表及び情報収集を行った。
京都大学医学研究科・D 2 山田 英里	福岡県	H27. 11. 21 ～ H27. 11. 24	第 63 回日本ウイルス学会学術集会に参加し、本事業に関する発表及び情報収集を行った。
京都大学ウイルス研究所・教授 小柳 義夫	東京都	H27. 11. 30 ～H27. 12. 1	第 29 回日本エイズ学会に参加し、本事業に関する研究打合せ及び情報収集を行った。
京都大学ウイルス研究所・教授 朝長 啓造	兵庫県	H27. 12. 1 ～ H27. 12. 3	第 38 回日本分子生物学会に参加し、本事業に関する成果発表及び情報収集を行った。

京都大学ウイルス研究所・助教 本田 知之	兵庫県	H27. 12. 1 ~ H27. 12. 3	第 38 回日本分子生物学会に参加し、本事業に関する成果発表及び情報収集を行った。
京都大学ウイルス研究所・助教 蝦名 博貴	兵庫県	H27. 12. 1 ~ H27. 12. 4	第 38 回日本分子生物学会に参加し、本事業に関する成果発表及び情報収集を行った。
京都大学生命科学研究科・M2 上田 修平	兵庫県	H27. 12. 1 ~ H27. 12. 4	第 38 回日本分子生物学会に参加し、本事業に関する成果発表及び情報収集を行った。
京都大学ウイルス研究所・教授 小柳 義夫	兵庫県	H27. 12. 2 ~ H27. 12. 4	第 38 回日本分子生物学会に参加し、本事業に関する情報収集を行った
京都大学ウイルス研究所・研究員 織 大祐	山形県	H27. 12. 8 ~ H27. 12. 10	RNA フロンティアミーティングに参加し、情報収集を行った。
京都大学ウイルス研究所・教授 藤田尚志	アメリカ サンフランシスコ、サン タバーバラ、 シアトル	H28. 1. 15 ~ H28. 1. 24	カリフォルニア大学サンフランシスコ校、カリフォルニア大学サンタバーバラ校、ワシントン大学の研究室を訪問し、セミナーを行った。

7-4 中間評価の指摘事項等を踏まえた対応
該当なし

8. 平成27年度研究交流実績総人数・人日数

8-1 相手国との交流実績

派遣先 派遣元	日	日本	イギリス	アメリカ	ベルギー	フランス	ドイツ	イタリア(第三国)	合計
日本	1		1/8 ()	4/31 ()		4/32 ()		4/34 ()	13/105 ()
	2		1/78 ()			1/4 ()	1/2 ()		3/84 ()
	3								0/0 ()
	4			1/10 ()					1/10 ()
	計		2/86 ()	5/41 ()	0/0 ()	5/36 ()	1/2 ()	4/34 ()	17/199 ()
イギリス	1								0/0 ()
	2								0/0 ()
	3								0/0 ()
	4								0/0 ()
	計	0/0 ()		0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()
アメリカ	1								0/0 ()
	2								0/0 ()
	3								0/0 ()
	4								0/0 ()
	計	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()
ベルギー	1								0/0 ()
	2								0/0 ()
	3								0/0 ()
	4								0/0 ()
	計	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()
フランス	1								0/0 ()
	2								0/0 ()
	3								0/0 ()
	4								0/0 ()
	計	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()
ドイツ	1								0/0 ()
	2								0/0 ()
	3								0/0 ()
	4								0/0 ()
	計	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()
イタリア(第三国)	1								0/0 ()
	2								0/0 ()
	3								0/0 ()
	4								0/0 ()
	計	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()
合計	1	0/0 ()	1/8 ()	4/31 ()	0/0 ()	4/32 ()	0/0 ()	4/34 ()	13/105 ()
	2	0/0 ()	1/78 ()	0/0 ()	0/0 ()	1/4 ()	1/2 ()	0/0 ()	3/84 ()
	3	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()
	4	0/0 ()	0/0 ()	1/10 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	0/0 ()	1/10 ()
	計	0/0 ()	2/86 ()	5/41 ()	0/0 ()	5/36 ()	1/2 ()	4/34 ()	17/199 ()

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流した人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※相手国側マッチングファンドなど、本事業経費によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。

8-2 国内での交流実績

1	2	3	4	合計
5/10 ()	14/51 ()	20/74 ()	()	39/135 ()

9. 平成27年度経費使用総額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	2,130,730	
	外国旅費	7,092,232	
	謝金	98,020	
	備品・消耗品 購入費	24,143	
	その他の経費	2,726,442	
	外国旅費・謝 金等に係る消 費税	715,433	外国学会参加 費、論文投稿 料、論文校正料 を含む
	計	12,787,000	
業務委託手数料		1,278,700	
合 計		14,065,700	

10. 平成27年度相手国マッチングファンド使用額

相手国名	平成27年度使用額	
	現地通貨額[現地通貨単位]	日本円換算額
イギリス	2,625 [GBP]	420,000 円相当
アメリカ	3,862 [USD]	430,000 円相当
ベルギー	2,800 [EUR]	350,000 円相当
フランス	1,600 [EUR]	200,000 円相当
ドイツ	2,103 [EUR]	267,000 円相当

※交流実施期間中に、相手国が本事業のために使用したマッチングファンドの金額について、現地通貨での金額、及び日本円換算額を記入してください。